

(様式1)

平成26年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案書

(整理番号) 064	提案機関名 県央地域県政総合センター 地域農政推進第一課
要望問題名 有害鳥獣が多種混在する地域での効果的な防護柵	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模(面積、数量等) 】 ・県央センター管内、特に厚木市においては、シカ、サル、イノシシ、小動物が生息している。一方で生産者は高齢化し、防護柵を設置する労力が不足している。このため多種類の動物に対して、簡易に設置できる効果的な防護柵(電気の有無にかかわらず)の検討をお願いしたい。	
解決希望年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	<input checked="" type="checkbox"/> ①農業技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ②畜産技術所 ③水産技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	自然環境保全センター	担当部所	研究連携課
担当者名:山中慶久 電話番号:046-248-0321		FAX番号:046-247-7545	
対応区分	①実施 ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 <input checked="" type="checkbox"/> ⑦実施不可		
試験研究課題名 (①、②、④の場合)			
対応の内容等 森林の分野では古くは40年ほど前から、林務課、県有林事務所、造林公社、林業試験場などが一体となって防鹿柵の開発・改良を行ってきており、近年までに各種の柵のタイプの効果や課題に関する知見がある程度得られています。さらに、近年は、野生動物用の防護柵を取り扱うメーカーも増え製品の改良も進んできたことから、独自の柵の開発・改良よりもメーカーの製品を使用しているのが現状です。このため、優先的に試験研究の課題として取り組む方針ではありませんが、参考までに自然環境保全センターでこれまで得られている山岳地の森林における防護柵に関する知見を情報提供することは可能です。			
解決予定年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考			

。